

# タイ政策金利引下げ(2014年3月12日発表)

## 概要と今後の見通し

ご参考資料 2014年3月13日

タイ中央銀行(BOT)は、3月12日の金融政策委員会において大方の予想通り政策金利を引下げました。同行は、政治混乱の長期化により個人消費や投資が落ち込み、経済成長の下振れリスクが拡大したものと判断から利下げを決定しました。

### 政策金利引下げの概要： 政情混乱による景気減速への対応

3月12日、BOTは政策金利を2.25%から0.25%引下げ2.0%としました。同行は、長引く政治の混乱による個人の消費マインドの落ち込みが経済成長の鈍化につながっていることを挙げており、中でも海外からの旅行客のキャンセルが相次いでいる観光産業への影響が大きいことを指摘しています。

1月22日の前回会合においてBOTは、足元の金融政策は緩和的であり景気回復を支えるためには適切であるとして、大方の市場の予想に反して政策金利を据え置きました。しかし、その後発表された経済指標は景気の弱さを示す内容のものが多く、2013年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+0.6%と7-9月期の同+2.7%から縮小しました。また、1月の自動車販売台数は前年同月比で約-46%と大幅減となりました。

BOTは、長引く政治の混乱から経済成長の下振れリスクが増大したとの判断から利下げを決定しましたが、主要国の景気回復に伴い輸出が回復し、この先の経済成長に弾みをつけるだろうと声明で述べています。

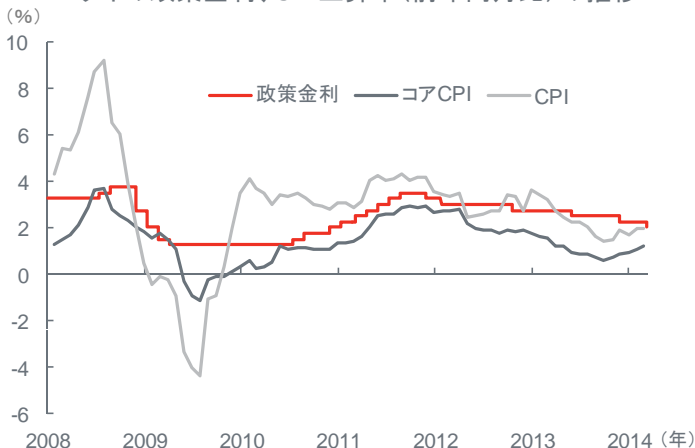
### 当社グループにおける今後の見通し： 政治動向を注視する必要があるものの タイへの前向きな見方に変更はなし

タイにおける政治的緊張は、短期的には引続き投資家心理の重石となるものと見られます。しかし、足元の金融市場は落ち着きを見せており、3月12日現在、タイの株式市場を代表するSET50指数は年初来で+3.9%と上昇しています。

また、物価動向は落ち着いており、2014年2月のコアCPIは前年同月比+1.22%と前月よりわずかに上昇したものの、依然としてBOTの目標レンジである+0.5%~3.0%の間に収まっています。インフレの落ち着きから緩和的な金融政策が維持されることが考えられます。

混乱する政治情勢の先行きを予測するのは困難ですが、当社グループにおける中長期的なタイ株式の見通しに変更はありません。タイ株式市場は域内の他市場と比較してPER水準は低く配当利回りが高い国の一つとなっており、相対的に割安であると考えています。引続き同国の経済・政治情勢を注視する必要があるとありますが、短期的な調整局面は、ファンダメンタルズが良好で割安な銘柄への投資機会と捉えています。

タイの政策金利、CPI上昇率(前年同月比)の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間: 2008年1月1日~2014年3月12日。CPI、コアCPIは2014年2月。

タイ 株価および予想PERの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間: 2008年1月1日~2014年3月12日。SET50指数を使用。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会